

平成21年度 事務事業評価シート（平成20年度実績分）

事務事業名		木造住宅耐震改修補助金		部課コード	1715	予算事業科目	010806010174	事	単	区分	継続
所管部署	担当部局	都市整備部		部局長名(2次評価者)	橋詰 辰男		個別事務	一部	010806010174	-	2
	担当部署	住宅課		所属長名(1次評価者)	吉永 清次			-	-	-	-
	電話番号	088-823-9463		E-mail	kc-171500@city.kochi.lg.jp			-	-	-	-

1 事業の位置付け

予算科目(平成20年度)		高知市総合計画・実施計画施策体系での位置付け										
会計	01 一般会計	目標	03 C環境と共生する安全で快適な都市							政策基本方針	災害に強いまちづくりを進めるため、自然の循環作用にも配慮しながら、都市防災構造化を推進するとともに、市民と行政とが一体となった防災対策、応急活動を行う自主防災組織の育成・強化、災害に強い人材育成などに取り組みます。	
款	08 土木費	政策	01 災害に強いまちづくり									
項	06 住宅費	施策	01 災害に強い基盤整備									
目	01 住宅管理費	区分	01 防災対策推進									

2 事業の根拠

法律・政令・省令	建築物の耐震改修促進に関する法律第3条, 地域住宅交付金交付要綱		法定受託事務
県条例・規則・要綱等	高知県木造住宅耐震化促進事業費補助金交付要綱		
市条例・規則・要綱等	高知市木造住宅耐震改修費等補助金交付要綱		
その他(計画, 覚書等)			

3 事業の目的・内容等

対象	誰(何)を対象に	昭和56年5月31日以前の旧耐震基準で建築された木造住宅のうち、耐震診断を受け総合評点1.0未満と診断された住宅で、改修工事後の総合評点1.0以上となる住宅			
意図	どのような状態にしていけるのか	既存木造住宅の耐震改修の促進を図ることにより、地震発生時の倒壊等による被害を軽減することを目的とする。			
手段	事業実施体制等	既存木造住宅の耐震改修工事を行う者に対して、戸建住宅で60万円、共同住宅で120万円を限度に補助金を交付する。	事業開始年度	平成17年度	
			事業終了年度		
活動内容	どのような事業活動を行うのか	<ul style="list-style-type: none"> ●補助事業の認定 ●対象住宅の一部の中間検査 ●補助事業の変更承認 ●実績報告書の審査 ●補助金の交付予定額の通知 ●補助金の交付決定・交付 			
成果指標	事業目的の成果を測る指標		指標設定の考え方		
	A	木造住宅耐震改修補助の件数	既存木造住宅における耐震改修工事の実施状況の割合		
	B				
	C				

4 事業の実績等

		18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(計画)	備考欄	
成果指標	A	木造住宅耐震改修補助の件数	目標			目標(H17~21年度)350件(H17は9件)	
		実績	31	50	188		
	B	目標					
		実績					
C	目標						
	実績						
投入コスト	① 事業費	決算額 (千円)	18,600	30,000	113,400	140,000	
		財源内訳	国費 (千円)	9,300	15,000	56,700	
			県費 (千円)	9,300	15,000	56,700	
			市債 (千円)				
			その他 (千円)				
			一般財源 (千円)	0	0	0	
	翌年度への繰越額 (千円)						
	② 概算人件費等	人件費等 (千円)	7,500	11,250	11,250		
		正規職員 (千円)	7,500	11,250	11,250		
			その他 (千円)				
		人役数 (人)	1.00	1.50	1.50		
			正規職員 (人)	1.00	1.50	1.50	
		その他 (人)					
	総コスト= ① + ② (千円)		26,100	41,250	124,650		
市民1人当たりコスト (円)		80	121	366			
年度末住民基本台帳人数 (人)		327,310	341,544	340,695	総コスト/年度末人口		

5 成果指標で表せない事業成果・市民満足度・その他課題点等

耐震改修工事を行うことで、地震発生時の被害軽減のみならず、耐震性能が備わっている住宅で日常生活を送っているという安心感をもたらしている。

6 1次評価（所属長評価）

評価日（平成 21 年 9 月 2 日）

評価項目		評価基準	1次	平均点数	評価内容の説明
事業実施の必要性	① [施策体系等での位置付け] 事業の実施が市の総合計画・実施計画・市長マニフェスト等の目標達成に結びつくか、又は、事業の根拠等に結びつくか	A (5) 結びつく	A	5.0	市長マニフェスト、第3次実施計画等にあげられていることや、南海地震の発生確率が、30年以内に62.3%となっていることで、市民の関心も非常に高まっている。
		B (3) 一部結びつく			
		C (1) あまり結びつかない			
		D (0) 結びつかない			
② [市民ニーズの傾向] 事業の実施に対する市民のニーズ（需要量）の傾向はどうか	A (5) 非常に多い、急増している	A			
	B (3) 横ばいである				
	C (1) 少ない、減少している				
	D (0) ほとんどない				
事業内容の有効性	③ [成果の達成状況] 事業の成果指標の達成状況は順調か	A (5) 十分に達成している	A	4.0	平成17～21年の達成目標は350件であり、21年度計画を含めると、実績見込みで目標を上回る。普及啓発については、耐震フェア、防災展等を行っており、一定の成果が上がっている。
		B (3) 概ね達成している			
		C (1) あまり順調ではない			
		D (0) 十分な成果を望めない			
	④ [事業の手法・活動内容] 事業成果の向上のための手法・活動内容の妥当性	A (5) 妥当である	B		
		B (3) 概ね妥当である			
		C (1) 検討の余地がある			
		D (0) 見直しが必要である			
事業実施の効率性	⑤ [アウトソーシングの可能性] 事業の実施にかかる民間活力利用の可能性	A (5) 実施済・できない	C	2.0	事業の認定や実績報告書の審査等について、アウトソーシングの検討の余地がある。類似事業はなく、概ね効率的である。
		B (3) 行政主体が望ましい			
		C (1) 検討の余地はある			
		D (0) 十分可能である			
	⑥ [事業統合・連携・コスト削減] 類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性	A (5) 現状が望ましい・できない	B		
		B (3) 概ね効率的にできている			
		C (1) 検討の余地がある			
		D (0) 十分可能である			
事業実施の公平性	⑦ [受益者の偏り] 事業の受益者が特定の個人(団体)等に偏りがなく公平性が保たれているか	A (5) 極めて公平性が高い	B	2.0	対象は、昭和56年5月31日以前の旧耐震基準で建築された木造住宅のうち、耐震診断を受け建物改修の必要がある住宅の所有者及び家族に限定されるが、対象家屋は市内に約5万棟ある。なお、受益者負担割合については、今後検討の余地がある。
		B (3) 概ね保たれている			
		C (1) 偏っている			
		D (0) 公平性を欠いている			
	⑧ [受益者負担の適正化] 事業実施の財源として、受益者負担割合（一般財源負担割合）は妥当か。補助金等交付事業の場合、対象経費は妥当か。	A (5) 適正な負担割合である	C		
		B (3) 概ね適正な負担割合である			
		C (1) 検討の余地がある			
		D (0) 検討すべきである			
総合点	13.0	総合評価	A 事業継続 (総合点が16点以上で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合)		
			B 経費削減に努め事業継続 (総合点が12点以上16点未満で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合)		
			C 事業縮小・再構築の検討 (総合点が4点以上12点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで2点以下がある場合)		
			D 事業廃止・凍結の検討 (総合点が4点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで1点以下がある場合)		

7 2次評価（部局長評価）

評価日（平成 21 年 9 月 11 日）

総合評価	評価理由・今後の方向性等
A 事業継続	南海地震に対する市民の関心も非常に高まっている。市内に約5万棟の木造住宅があり、今後、受益者負担割合等について検討の余地がある。
B 経費削減に努め事業継続	
<input checked="" type="radio"/> C 事業縮小・再構築の検討	
D 事業廃止・凍結の検討	

8 特記事項